

学びと成長レポート

第3特別号

はじめに

立命館大学では、コロナ禍における正課授業の実施状況と学生の皆さんの学修実態を把握するために、2020年度から継続して様々なアンケート調査を行ってきました。そして、それらの結果から学生や教員が抱えている課題やニーズを抽出し、段階的にではありますが、課題の解消やニーズへの呼応に努めてきました。また、それらの概要については、これまで「学びと成長レポート 特別号¹」および「学びと成長レポート 第2特別号²」として学生の皆さんに報告してきました。

今回の「学びと成長レポート 第3特別号」では、今年度春学期末に実施した「2021年度春学期授業アンケート（別表1）」と、秋学期に実施した「対面・Web 授業を希望する理由についての学生アンケート（別表2）」の二つのアンケートの結果から判明したことを報告します。

前者では、2019年度春学期から2021年度春学期までの共通設問の回答の推移を見ることで、コロナ禍において、学生の皆さんの学びの成果がどのように変化したかを確認します。また、2021年度春学期の回答データを用いた統計分析によって明らかになった「授業の実施形態と学習充実感との関係性」についても報告します。

後者は、対面授業が再開した2021年度秋学期中盤に、「講義」、「演習・実習・実験科目」、「外国語科目」それぞれについて、Web 授業を含めて皆さんがどのような受講形態を適切だと考えているのか、またどのような理由でそう考えているのかを回答して頂いたものであり、その結果についても報告します。

最後に、これら二つのアンケートの結果が示唆する「コロナ禍における大学の実際」についてのまとめを示したいと思えます。

1. 2021年度春学期授業アンケートの分析結果について

このアンケートの結果から、本学における今後の授業のあり方を考える上で参考になるいくつかの知見が得られました。

はじめに、**コロナ禍による教育現場の混乱は一時的**であったことが明らかになりました。19年度春学期から21年度春学期までの共通設問（基本6項目）の回答の推移をみると、多くの項目がコロナの影響を受けて20年度春学期に大きく低下しましたが、直後の20年度秋学期から回復基調を示し、21年度春学期には、コロナ前（19年度）の水準に達する項目、上回る項目が確認されました（表1；1「そう思わない」-5「そう思う」の5段階尺度の平均）。

つぎに、授業アンケートのデータを構造方程式モデリングにより分析することで、因果モデルに一定の適合度が確認されました（GFI=.991、CFI=.977、RMSEA=.069）。このモデルから次の3つの知見を見出すことができます（図1）。

1 学びと成長レポート 特別号（2020年10月）<http://www.ritsumeai.ac.jp/file.jsp?id=495129>

2 学びと成長レポート 第2特別号（2021年4月）<http://www.ritsumeai.ac.jp/file.jsp?id=495194>

表1 授業アンケートの「基本6項目」、および「総合的満足度」の回答平均値

#	質問項目	授業種別	2019		2020		2021
			春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期
Q1	シラバス遵守度	講義系	4.41	4.42	4.26	4.38	4.46
		外国語	4.52	4.50	4.30	4.35	4.51
		小集団	4.56	4.56	4.41	4.53	4.59
Q2	授業外学習時間	講義系	1.83	1.86	2.77	2.51	2.32
		外国語	2.22	2.17	2.96	2.79	2.62
		小集団	2.43	2.66	2.95	2.90	2.61
Q3	学習意欲の促進	講義系	3.94	3.97	3.89	3.99	4.01
		外国語	4.11	4.07	3.88	3.92	4.09
		小集団	4.25	4.29	4.15	4.30	4.28
Q4	能動的学習態度	講義系	4.07	4.07	4.01	4.08	4.13
		外国語	4.29	4.25	4.06	4.12	4.31
		小集団	4.36	4.36	4.26	4.42	4.40
Q5	到達目標達成度	講義系	3.86	3.86	3.78	3.87	3.91
		外国語	3.95	3.95	3.75	3.83	3.92
		小集団	4.07	4.11	3.94	4.11	4.10
Q6	学び役立ち度	講義系	4.21	4.22	4.11	4.18	4.25
		外国語	4.26	4.25	4.04	4.07	4.23
		小集団	4.45	4.47	4.32	4.44	4.45
Q12	総合的満足度	講義系			3.88	4.05	4.12
		外国語			3.85	3.95	4.18
		小集団			4.09	4.30	4.33

※「Q12 総合満足度」は2020年度春学期から設置されたため、2019年度は空白となっている。

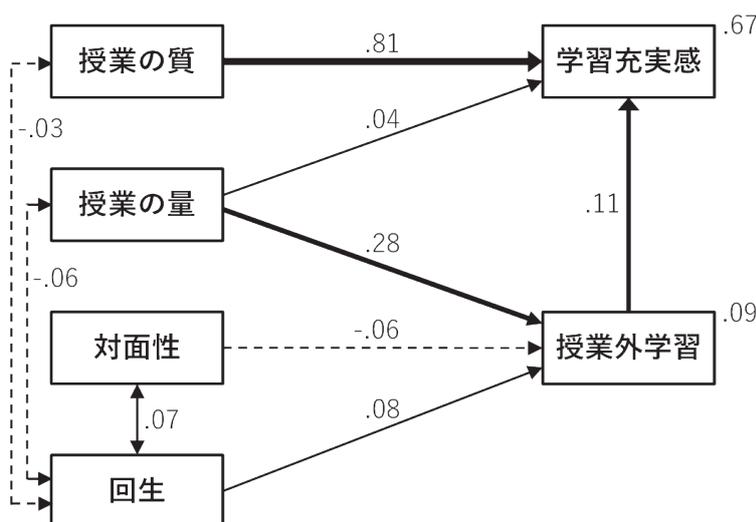


図1 授業指標と回生が学習指標に及ぼす影響

一つ目は、**学生が学習充実感を得られるかは、授業の質次第である**ということです（図1；授業の質から学習充実感へのパス係数が.81）。授業の質を決めるのは、**授業の内容**（学び役立ち度、シラバス遵守度）、**教員の技量**（学習意欲促進、フィードバック）、そして、それらが**学生の学びのスタイル**にどれだけ適合しているかの3要素なのです。なお、学習充実感とは、**能動的**に取り組むことで、**到達目標**を達成し、この授業を取ってよかったと**満足感**を得ることを意味します。

二つ目は、**授業が対面か Web かは、学生の学習充実感や授業外学習時間に大きな影響を及ぼさない**ということです（図1；対面性は授業外学習に-.06と弱い影響を及ぼすのみ）。これは同じ形式の授業を受けていても、受講生によって学習体験や学習成果に大きな差があるためです。

三つ目は、**授業外学習をしっかりと行うほど、学習充実感が高くなる**ということです（図1；授業外学習から学習充実感へのパス係数が.11）。時間内で完結する授業よりも、適切な量の課題が出る授業の方が、みなさんの学びにポジティブな影響を及ぼすことが分かります。

これらの結果は、コロナ禍で盛んに議論されたいわゆる「対面／Web 論争」にひとつのピリオドを打つものだと考えられます。すなわち、授業というものは、対面・Web に関係無く、**教員が高質で相互作用的な授業を行うことが、学生が充実した学びを得るために、必要不可欠だ**ということです。もちろん、**学生のみならずもしっかりと予復習や課題に取り組むこと**が求められます。コロナ禍という非現実的な事態は、教える側と学ぶ側の双方に、ごく当たり前の事実を突き付けたこととなります。

20年度春学期から、多くの授業がオンラインで実施されてきました。当初は教員も学生も Web 授業に慣れないため、20年度春学期の授業アンケートの各項目のポイントは悪化しました。しかし、教員と学生の Web 授業に対するスキルが向上したことで、それらは 21年度春学期には回復しました。とりわけ「フィードバック」の重要性が明確になりました。そして、もはや「対面か Web か」、「VOD かリアルタイムか」という従来の対立軸は意味を失いました。

今後、教員はメディアの特性を活かし、インタラクションやフィードバックを心がけることで質の高い授業を提供し、適度な課題を課すことで授業外学習を促していきます。学生の皆さんも、自らの学びのスタイルに応じて、能動的に授業に参加し、学びを充実させるように心掛けてください。

2. 「対面・Web 授業を希望する理由についての学生アンケート」の結果について

前述のとおり、教学部では、対面授業が再開した 21年度秋学期中盤に、Web 授業を含めて学生がどのような受講形態を適切だと考えているのかということと、その理由について調査しました。

対象は学部生（全 32,305 名）で、アンケート実施期間は 2021 年 11 月 1 日（月）～ 2021 年 11 月 14 日（日）の 2 週間です。有効回答数は 1,801 名あり、回答率は 5.6% でした。また、回答学年は 1 回生 450 名、2 回生 601 名、3 回生 501 名、4 回生 225 名、5 回生以上 24 名で、5 回生以上を除いて特に大きな偏りは見られませんでした。

(1) 「講義」、「演習・実習・実験科目」、「外国語科目」のそれぞれについて、今後の授業形態として適切だと考える形態（単一選択）（表 2）

講義については、「諸事情を勘案して選択可能」が 62.4% と最も多く、「VOD 型」が 20.7% と続きました。一方、「演習・実習・実験科目」においては、「対面授業」が 58.3%、「諸事情を勘案して選択可能」が 27.2% でした。外国語科目は「対面授業」が最も多かったものの、「対面授業」、「リアルタイム型」および「諸事情を勘案して選択可能」にある程度均一に分散している傾向が確認されました。また、「今後の授業形態として適切だと考える授業形態」について回生別の回答分布を調べたところ、いずれの授業種別においても回生間で顕著な差異は見られませんでした。

なお、講義で最も多かった「諸事情を勘案して選択可能」とは、受講生各自が、自らの感染リスク（57%）や時間割上の都合（74%）、授業ごとの学習内容や方法（63%）、自らの学びのスタイル（適性）（56%）、その他（7%）に応じて対面か Web 受講かを選ぶことができるようにして欲しいと答えるもので、20年度秋学期に行った「学生の受講状況に関するアンケート調査」でも学生側の意見として多数、聴取されていたものです。ただし、少数ではありますが、個別配慮申請を行った学生が 1 時間目の授業には来ないが、昼からの授業は受講している、大学には来ないがバイトには行っている等、制度の趣旨に合致しない実態が浮きぼりとなりました。せっかく対面授業が再開したにも関わらず、学生の個人的な事情から比較的負担の少ない履修方法を望んでいると見做さざるを得ないケースも散見されています。

表 2 「講義」、「演習・実習・実験科目」、「外国語科目」のそれぞれについて、今後の授業形態として適切だと考える形態

回答選択肢	回答数			回答比率		
	講義	演習実習実験	外国語	講義	演習実習実験	外国語
(1)対面授業	160	1050	588	8.9%	58.3%	32.6%
(2)リアルタイム型	144	154	380	8.0%	8.6%	21.1%
(3)VOD型	373	108	283	20.7%	6.0%	15.7%
(4)諸事情を勘案して選択可能	1124	489	550	62.4%	27.2%	30.5%
合計	1801	1801	1801	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 「対面授業」が適切であると回答した理由

①講義における理由 (表3)

講義について、各種授業形態を適切だと考える理由を表3に示します。特徴を把握するため、各授業形態において、回答者の過半数によって選択された理由を「主な理由」と便宜的に定義し、表中に●で記しました。講義において「対面授業」が適切であると考えた主な理由は、「授業が理解しやすい」、「生活リズムを作りやすい」、「授業に集中できる」、「教員や受講生とのコミュニケーション」および「友人作り、友人との交流」でした。「リアルタイム型」が適切であると考えた主な理由は、「生活リズムを作りやすい」、「学修場所を選択できる」、「自身の学びのスタイルに合っている」、「通学時間の影響を受けない」および「感染リスク」でした。「VOD型」が適切だと考える主な理由は、「リアルタイム型」における理由に加えて、「授業が理解しやすい」、「自身のペースで学修できる」、「何度も復習できる」が挙げられました。これらは、これまでのアンケート調査でも明らかになっている各授業形態におけるメリットとも整合しますが、特筆すべき結果として以下のようなものが挙げられます。

- ・リアルタイム型やVOD型に見られる「自身の学びのスタイルに合っているかどうか」は、「対面授業」においては主な理由ではない。
- ・「対面授業」の受講が、授業そのものよりはむしろ「友人作り、友人との交流」のきっかけとして捉えられている。

これらは、特に講義で「対面授業」を望む学生層に関して、授業そのものの適切性よりはむしろ対面授業を通して得られる他の受講生、友人とのコミュニケーションや交流を求めている可能性が高いことを示唆しています。ただし、授業そのものへの期待と異なるからと言って無碍にできるものではなく、本学がこれまで行った学生部の調査や「学びと成長調査」でも指摘されるとともに、父母からの要望にも多く見られる内容であるため、大学としてしっかりと交流の機会を設けていきたいと考えています。

表3 対面、リアルタイム型、VOD型それぞれを適切だと考える理由 (講義)

回答選択肢	回答数			回答比率			主な理由 (過半数が選択したもの)		
	対面授業	リアルタイム型	VOD型	対面授業	リアルタイム型	VOD型	対面授業	リアルタイム型	VOD型
授業が理解しやすい	122	63	240	76.3%	43.8%	64.3%	●		●
生活リズムを作りやすい	105	74	194	65.6%	51.4%	52.0%	●	●	●
自身のペースで学修できる	7	67	323	4.4%	46.5%	86.6%			●
学修場所を選択できる	12	111	292	7.5%	77.1%	78.3%		●	●
何度も復習できる	0	54	307	0.0%	37.5%	82.3%			●
授業に集中できる	113	58	164	70.6%	40.3%	44.0%	●		
自身の学びのスタイルに合っている	64	82	248	40.0%	56.9%	66.5%		●	●
授業の内容、課題・小テストの分量	34	5	17	21.3%	3.5%	4.6%			
大学のサービスが利用できる	63	8	26	39.4%	5.6%	7.0%			
教員や受講生とのコミュニケーション	90	15	27	56.3%	10.4%	7.2%	●		
通信環境の影響を受けない	53	2	57	33.1%	1.4%	15.3%			
通学時間の影響を受けない	2	96	253	1.3%	66.7%	67.8%		●	●
友人作り、友人との交流	90	1	3	56.3%	0.7%	0.8%	●		
感染リスク	0	77	212	0.0%	53.5%	56.8%		●	●
その他	9	11	40	5.6%	7.6%	10.7%			

②演習・実習・実験科目における理由 (表4)

演習・実習・実験科目について、各種授業形態を適切だと考える理由を表4に示します。ここでも表中の●印の意味は前述と同様です。演習・実習・実験科目において「対面授業」が適切であると考えた主な理由は、「授業が理解しやすい」、「教員や受講生とのコミュニケーション」でした。「リアルタイム型」が適切であると考えた主な理由は、「学修場所を選択できる」、「自身の学びのスタイルに合っている」、「通学時間の影響を受けない」でした。「VOD型」が適切だと考える主な理由は、「リアルタイム型」における理由に加えて、「授業が理解しやすい」、「生活リズムを作りやすい」、「自身のペースで学修できる」、「何度も復習できる」が挙げられました。

表4 対面、リアルタイム型、VOD型それぞれを適切だと考える理由（演習・実習・実験科目）

回答選択肢	回答数			回答比率			主な理由（過半数が選択したもの）		
	対面授業	リアルタイム型	VOD型	対面授業	リアルタイム型	VOD型	対面授業	リアルタイム型	VOD型
授業が理解しやすい	640	70	66	61.0%	45.5%	61.1%	●		●
生活リズムを作りやすい	104	65	60	9.9%	42.2%	55.6%			●
自身のペースで学修できる	21	56	79	2.0%	36.4%	73.1%			●
学修場所を選択できる	62	96	71	5.9%	62.3%	65.7%		●	●
何度も復習できる	8	36	77	0.8%	23.4%	71.3%			●
授業に集中できる	361	63	50	34.4%	40.9%	46.3%			
自身の学びのスタイルに合っている	239	82	64	22.8%	53.2%	59.3%		●	●
授業の内容、課題・小テストの分量	54	7	9	5.1%	4.5%	8.3%			
大学のサービスが利用できる	235	9	8	22.4%	5.8%	7.4%			
教員や受講生とのコミュニケーション	765	36	13	72.9%	23.4%	12.0%	●		
通信環境の影響を受けない	181	6	16	17.2%	3.9%	14.8%			
通学時間の影響を受けない	5	77	59	0.5%	50.0%	54.6%		●	●
友人作り、友人との交流	441	8	2	42.0%	5.2%	1.9%			
感染リスク	0	74	50	0.0%	48.1%	46.3%			
その他	32	7	4	3.0%	4.5%	3.7%			

③外国語科目における理由（表5）

外国語科目について、各種授業形態を適切だと考える理由を表5に示します。外国語科目において「対面授業」が適切であると考えられる主な理由は上述の「演習・実習・実験科目」と同じで、「授業が理解しやすい」、「教員や受講生とのコミュニケーション」の2つでした。「リアルタイム型」が適切であると考えられる主な理由は、「学修場所を選択できる」のみ、「VOD型」が適切だと考える主な理由は「リアルタイム型」における理由に加えて、「授業が理解しやすい」、「自身のペースで学修できる」、「何度も復習できる」、「自身の学びのスタイルに合っている」でした。

表5 対面、リアルタイム型、VOD型それぞれを適切だと考える理由（外国語科目）

回答選択肢	回答数			回答比率			主な理由（過半数が選択したもの）		
	対面授業	リアルタイム型	VOD型	対面授業	リアルタイム型	VOD型	対面授業	リアルタイム型	VOD型
授業が理解しやすい	418	150	159	71.1%	39.5%	56.2%	●		●
生活リズムを作りやすい	81	107	113	13.8%	28.2%	39.9%			
自身のペースで学修できる	9	97	206	1.5%	25.5%	72.8%			●
学修場所を選択できる	25	195	173	4.3%	51.3%	61.1%		●	●
何度も復習できる	5	67	192	0.9%	17.6%	67.8%			●
授業に集中できる	254	118	105	43.2%	31.1%	37.1%			
自身の学びのスタイルに合っている	136	177	148	23.1%	46.6%	52.3%			●
授業の内容、課題・小テストの分量	50	18	18	8.5%	4.7%	6.4%			
大学のサービスが利用できる	62	12	13	10.5%	3.2%	4.6%			
教員や受講生とのコミュニケーション	391	96	20	66.5%	25.3%	7.1%	●		
通信環境の影響を受けない	115	10	39	19.6%	2.6%	13.8%			
通学時間の影響を受けない	3	157	139	0.5%	41.3%	49.1%			
友人作り、友人との交流	234	20	3	39.8%	5.3%	1.1%			
感染リスク	0	119	103	0.0%	31.3%	36.4%			
その他	19	27	8	3.2%	7.1%	2.8%			

3. おわりに

一連の調査は「コロナ禍における大学の実際」の姿を明らかにするものです。1つ目の「2021年度春学期授業アンケートの分析結果」によると、コロナ禍による教育現場の混乱は一時的なものであったこと、学生が学習充実感を得られるかは対面・Webの授業形態ではなく、授業の根幹をなす「授業の質」に左右されるということでした。2つ目の「対面・Web授業を希望する理由についての学生アンケート」によると、学生の授業形態に関する選好は授業内容によって様々な理由から変わってくるということでした。

それらは結局のところ、世間でよく言われる「大学生が対面授業を望んでいる」という単純な語りでは実態を説明できないこと、より丁寧に学生の皆さんの意見を集約し確認することが必要であるとことを示したものです。

そもそも大学という場所に集う人々の行動や考え、実存は多様であり、さらに誰もが経験したことのない危機への反応など、そう簡単に語れるものではありません。「コロナ禍における大学」という共通性と差異から成る全体像を描くためには、十分な資料をもとに慎重で入念な分析が必要であることは当然のことだったのです。「学生」というあまりにも大きな主語で何かを語るには多様で大量のデータとそれらを整理する忍耐力、さらに高度な分析と議論が必要でありました。本学には教学と学生実態を把握するために必要なシステムとスタッフがいて、これを改めて強調したいと思います。

こうして得られた結果は短期的には「コロナ禍における大学の教学」への示唆を与えるものとなります。すなわち、次年度に向けて対面授業の実施のあり方をどのように策定し、大学として学生の皆さんにどのようなメッセージを発していくべきか、検討するための根拠となるものでした。

一方で、一連の調査から得られた知見は未来の大学のあり方を議論する上で重要な論拠となるでしょう。「100年に1度の危機」は、これまで当然とされた授業やキャンパスのあり方について改めて考え直すことを私たちに要求してきました。自らの経験を振り返り、得られた知見が示すものは、「コロナ以前のキャンパスへの回帰」でも「対面／Webの単純な二元論」でもない、「学びの効果」と「学びへのアクセシビリティ」に基づく新しいキャンパスのあり方、すなわち、キャンパスDX化を含めた大学における新しい教学の姿に接続されるものです。

最後に一連の調査にご協力いただきました学生の皆さんに心より感謝申し上げたいと思います。実施された一連の調査は、すでに始まっている本学園の将来構想「R2030」を活性化するとともに、そこに地に足のついた未来予想図を提供することになるでしょう。

未来の大学、未来の学びをめぐる議論は始まったばかりです。学生の皆さんが教職員とともに主体的に協働的に学園の明日を創り出すことに心より期待をしています。

別表1 〈2021年度春学期授業アンケート（学生向け）〉

質 問	選択肢と、回答平均値の算出に用いた係数
Q1. シラバス遵守度 受講生の到達目標、授業の概要と方法、成績評価方法はシラバスとコースニュースなどの説明に沿って行われましたか。	5：行われた 4：ある程度行われた 3：どちらともいえない 2：あまり行われなかった 1：行われなかった
Q2. 授業外学習時間 あなたは、予習復習、準備、課題のために、1回当たり平均してどの程度授業時間外に費やしましたか。	5.000：180分以上 4.375：150分以上180分未満 3.750：120分以上150分未満 3.125：90分以上120分未満 2.500：60分以上90分未満 1.875：30分以上60分未満 1.250：30分未満 0.625：しなかった
Q3. 学習意欲の促進 あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか。	5：そう思う 4：ある程度そう思う 3：どちらともいえない 2：あまりそう思わない 1：そう思わない

<p>Q4. 能動的学習態度 あなたは、能動的にこの授業に取り組みましたか。</p>	<p>5：取り組んだ 4：ある程度取り組んだ 3：どちらともいえない 2：あまり取り組まなかった 1：取り組まなかった</p>
<p>Q5. 到達目標達成度 あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか。</p>	<p>5：達成できた 4：ある程度達成できた 3：どちらともいえない 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった</p>
<p>Q6. 学びの役立ち度 この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。</p>	<p>5：役立った 4：ある程度役立った 3：どちらともいえない 2：あまり役立たなかった 1：役立たなかった</p>
<p>Q7. 対面／Web 授業比率 この授業において、あなたが「対面授業」と「Web 授業」で受講した時間の比率を7段階で選んで下さい。</p>	<p>7：すべて対面授業（対面 100%） 6：ほぼ全て対面（対面 80%以上 100%未満） 5：大半は対面（対面 60%以上 80%未満） 4：半分程度は対面（40%以上 60%未満） 3：ある程度は対面（対面 20%以上 40%未満） 2：ほぼ全て Web 授業（対面 1%以上 20%未満） 1：すべて Web 授業（対面 0%）</p>
<p>Q8. Web 授業の受講形態 この授業の「Web 授業」で受講した部分において、あなたは主にどのような形式で受講していましたか。</p>	<p>4：Zoom などのライブ配信によるリアルタイム形式 3：ビデオやスライド動画をいつでも見られる VOD 形式 2：提示された文献や資料を読み、課題を提出する形式 1：この科目を Web 授業では受講しなかった</p>
<p>Q9. 学びのスタイルへの適合度 この授業の実施形態（対面／Web 授業の比率、Web 授業の形式）は、あなたの学びのスタイルに合っていましたか。</p>	<p>5：そう思う 4：ある程度そう思う 3：どちらともいえない 2：あまりそう思わない 1：そう思わない</p>
<p>Q10. 授業の内容や課題・小テストの分量 この授業の内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか。</p>	<p>5：多かった 4：やや多かった 3：適切な量であった 2：やや少なかった 1：少なかった</p>
<p>Q11. フィードバック この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック（回答・解説・コメント等）が十分に行われていましたか。</p>	<p>5：そう思う 4：ある程度そう思う 3：どちらともいえない 2：あまりそう思わない 1：そう思わない</p>
<p>Q12. 総合的満足度 総合的に判断してこの授業に満足しましたか。</p>	<p>5：そう思う 4：ある程度そう思う 3：どちらともいえない 2：あまりそう思わない 1：そう思わない</p>

別表2 〈対面・Web 授業を希望する理由についての学生アンケート〉

質 問	選択肢
<p>Q1. あなたにとって今後の「講義」の授業形態として、適切だと考えるものを一つ選んでください。(単一選択)</p>	<p>(1) 「対面授業」が適切である (2) リアルタイム形式の「Web 授業」が適切である (Zoomなどのライブ配信) (3) VOD形式の「Web 授業」が適切である (ビデオやスライド動画) (4) 感染リスクや時間割上の都合、学習内容や方法、自分の適性等に応じて選択できることが適切である</p>
<p>Q2. Q1 で(1)、(2)、(3)を選択した方に伺います。回答の理由として当てはまるものを全て選んでください (複数選択可)</p>	<p>(1) 授業が理解しやすいから (2) 生活リズムが作りやすいから (3) 自分のペースで学修を進めることができるから (4) 自分が望む場所で授業を受けられるから (5) 何度も復習できるから (6) 授業に集中できるから (7) その授業形態の方が自分の学びのスタイルにあっているから (8) 他の授業形態より授業の内容、課題・小テストの分量が少なく済むから (9) 大学が提供するサービス (※) を利用することができるから (10) 教員や他の受講生との相互のやりとりがしやすいから (11) 通信環境の影響を受けないから (12) 通学時間の影響を受けないから (13) 友人を作ることができる、友達と会えるから (14) 感染リスクを減らしたいから (15) その他 (自由記述)</p> <p>※「大学が提供するサービス」とは、図書館や教室などの施設・設備、学生支援などのサポートサービス、学内無線 LAN などの情報通信インフラなどを指します。</p> <p>※特に理由がない場合は、「その他 (自由記述)」の選択肢に「特になし」と記載して下さい。</p>
<p>Q3. Q1 で(4)を選択した方に伺います。回答の理由として当てはまるものを全て選んでください (複数選択可)</p>	<p>(1) 感染リスクを考慮して (通学時や教室、学内施設の混雑具合など) (2) 時間割上の都合を考慮して (対面授業と Web 授業の混在など) (3) 授業ごとの学習内容や方法を考慮して (たとえば、教員からの一方的な授業であったり、グループワークやプレゼンテーションが行われる授業であったりを考慮すること) (4) 自分の学びのスタイル (適性) を考慮して (5) その他 (自由記述)</p> <p>※特に理由がない場合は、「その他 (自由記述)」の選択肢に「特になし」と記載して下さい。</p>

<p>Q4. あなたにとって今後の「演習・実習・実験科目」の授業形態として、適切だと考えるものを一つ選んでください。(単一選択)</p> <p>※演習とは、受講生個人やグループでの活動を中心とした授業で、基礎演習や卒業研究などの小集団科目を含めて、多くは「～演習」などと表示されているものを指します。</p>	<p>(1) 「対面授業」が適切である (2) リアルタイム形式の「Web 授業」が適切である (Zoomなどのライブ配信) (3) VOD形式の「Web 授業」が適切である (ビデオやスライド動画) (4) 感染リスクや時間割上の都合、学習内容や方法、自分の適性等に応じて選択できることが適切である</p>
<p>Q5. Q4 で(1)、(2)、(3)を選択した方に伺います。回答の理由として当てはまるものを全て選んでください (複数選択可)</p>	<p>(1) 授業が理解しやすいから (2) 生活リズムが作りやすいから (3) 自分のペースで学修を進めることができるから (4) 自分が望む場所で授業を受けられるから (5) 何度も復習できるから (6) 授業に集中できるから (7) その授業形態の方が自分の学びのスタイルにあっているから (8) 他の授業形態より授業の内容、課題・小テストの分量が少なくて済むから (9) 大学が提供するサービス (※) を利用することができるから (10) 教員や他の受講生との相互のやりとりがしやすいから (11) 通信環境の影響を受けないから (12) 通学時間の影響を受けないから (13) 友人を作ることができる、友達と会えるから (14) 感染リスクを減らしたいから (15) その他 (自由記述)</p> <p>※「大学が提供するサービス」とは、図書館や教室などの施設・設備、学生支援などのサポートサービス、学内無線 LAN などの情報通信インフラなどを指します。</p> <p>※特に理由がない場合は、「その他 (自由記述)」の選択肢に「特になし」と記載して下さい。</p>
<p>Q6. Q4 で(4)を選択した方に伺います。回答の理由として当てはまるものを全て選んでください (複数選択可)</p>	<p>(1) 感染リスクを考慮して (通学時や教室、学内施設の混雑具合など) (2) 時間割上の都合を考慮して (対面授業と Web 授業の混在など) (3) 授業ごとの学習内容や方法を考慮して (たとえば、教員からの一方的な授業であったり、グループワークやプレゼンテーションが行われる授業であったりを考慮すること) (4) 自分の学びのスタイル (適性) を考慮して (5) その他 (自由記述)</p> <p>※特に理由がない場合は、「その他 (自由記述)」の選択肢に「特になし」と記載して下さい。</p>

<p>Q7. あなたにとって今後の「外国語科目」の授業形態として、適切だと考えるものを一つ選んでください。(単一選択)</p>	<p>(1) 「対面授業」が適切である (2) リアルタイム形式の「Web 授業」が適切である (Zoomなどのライブ配信) (3) VOD形式の「Web 授業」が適切である (ビデオやスライド動画) (4) 感染リスクや時間割上の都合、学習内容や方法、自分の適性等に応じて選択できることが適切である</p>
<p>Q8. Q7で(1)、(2)、(3)を選択した方に伺います。回答の理由として当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)</p>	<p>(1) 授業が理解しやすいから (2) 生活リズムが作りやすいから (3) 自分のペースで学修を進めることができるから (4) 自分が望む場所で授業を受けられるから (5) 何度も復習できるから (6) 授業に集中できるから (7) その授業形態の方が自分の学びのスタイルにあっているから (8) 他の授業形態より授業の内容、課題・小テストの分量が少なく済むから (9) 大学が提供するサービス(※)を利用することができるから (10) 教員や他の受講生との相互のやりとりがしやすいから (11) 通信環境の影響を受けないから (12) 通学時間の影響を受けないから (13) 友人を作ることができる、友達と会えるから (14) 感染リスクを減らしたいから (15) その他(自由記述)</p> <p>※「大学が提供するサービス」とは、図書館や教室などの施設・設備、学生支援などのサポートサービス、学内無線LANなどの情報通信インフラなどを指します。</p> <p>※特に理由がない場合は、「その他(自由記述)」の選択肢に「特になし」と記載して下さい。</p>
<p>Q9. Q7で(4)を選択した方に伺います。回答の理由として当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)</p>	<p>(1) 感染リスクを考慮して(通学時や教室、学内施設の混雑具合など) (2) 時間割上の都合を考慮して(対面授業とWeb授業の混在など) (3) 授業ごとの学習内容や方法を考慮して(たとえば、教員からの一方的な授業であったり、グループワークやプレゼンテーションが行われる授業であったりを考慮すること) (4) 自分の学びのスタイル(適性)を考慮して (5) その他(自由記述)</p> <p>※特に理由がない場合は、「その他(自由記述)」の選択肢に「特になし」と記載して下さい。</p>